

試験学習の取り組み方

～ 相手(敵)を知ること何事にも大切 ～

=====
試験問題を解く上で忘れてはいけないことの1つに「試験問題は人間が作っている」ということが挙げられます。今回はこの点を説明していきましょう。

★★★

試験問題を解く際、多くの方たちが「どこに誤りがあるのか」「難しい内容だから消去法で正解の確率をアップさせよう」といった作戦的なことを考え、何らかの理由をもって○×の判断をされていることでしょうか。つまり、問題を解くという行為には、受験生の『思惑』が働いて行われるものだといえます。これと同様、試験問題を作成する行為にも「この部分を誤りにして×の選択肢にしよう」「この問題を難しくして、差をつけよう」といった『思惑』が働いています。

★★★

試験当日は時間的に無理ですが、学習時に過去問を解く際は、「何でこの問題を作ったのか」「なぜこの部分を誤りにしたのか」といった作問者の『思惑』まで探ってみてはいかがでしょうか。

★★★

方法としては、問題を読んで、「○か×か」だけでなく、とりあえず「何でこの問題を作ったのか」「なぜこの部分を誤りにしたのか」など、作問者の『思惑』を想像してみます。そして、解説文を読んで、その内容を理解するだけでなく、もう一度作問者の『思惑』を想像してみます。この作業の繰り返しです。すでにお気づきの方もいらっしゃるでしょうが、作問者の『思惑』に正解はございません。直接作問者に質問できるわけでもありませんし、質問できたところで、正直な回答が得られるわけでもないので、作問者の『思惑』の真偽はどうでもいいのです。作問者の『思惑』を考えながら問題を解くということに一番の意味があるのです。

★★★

学習開始期は、この方法を用いても、「大切だから出題したのでは？」といった感じで漠然とした『思惑』を想像することと思います。ですが、ある程度学習を進めていくと、「この部分以外に誤りにできる箇所がないのか！」といった踏み込んだ想像になっていき、さらに学習を進めていくと、問題だけでなく、テキストを読んでも、「この内容だと問題を作成するのは困難だから、試験に出題されにくい」「この内容は、都道府県を市町村に置き換える以外に正誤判断部分を作るのは難しいな」と、受験生側と作問者側の双方の『思惑』で取り組んでいくことが可能になってきます。

★★★

試験問題や作問者という「相手(敵)」を知ることが、実は得点力アップの近道なのかもしれませんね。

福祉試験対策工房&ぼぼ屋は、FacebookやInstagramも開設しています。

 @fukusitaisaku_boboya

 fukusitaisaku_boboya

★「いいね」「フォロー」大歓迎です！是非ご覧になってください★

